

(古典) 漢文「推敲」定期テスト対策練習問題無料プリント

年	組	番	名前
---	---	---	----

次の漢文「推敲」について、問いに答えなさい。

推敲

賈島赴拳至京。
 騎驢賦詩、
 得「僧推月下門」之句。
 欲改推作敲。
 引手作推敲之勢、
 不覺衝大尹韓愈。
 乃具言。
 愈曰、
 「敲字佳矣。」
 遂並轡論詩久之。

問1 本文が収められている書物の名前を漢字で答えなさい。

問2 本文は、どの時代のころの話か、次の中から選び丸で囲みなさい。

- ア：初唐
- イ：中唐
- ウ：晩唐
- エ：盛唐

問3 「騎」の読みを、送り仮名も含め、歴史的仮名遣いを用いて答えなさい。



問4 「賦」の読みを、送り仮名も含め、歴史的仮名遣いを用いて答えなさい。

問5 「欲改推作敲」の「作」の読みを、送り仮名も含め、歴史的仮名遣いを用いて答えなさい。

問6 「衝」の読みを、送り仮名も含め、歴史的仮名遣いを用いて答えなさい。

問7 「乃具言」の「乃」の読みを、送り仮名も含め、歴史的仮名遣いを用いて答えなさい。

問8 「具」の読みを、送り仮名も含め、歴史的仮名遣いを用いて答えなさい。

問9 「佳」の読みを、送り仮名も含め、歴史的仮名遣いを用いて答えなさい。

問10 「遂」の読みを、送り仮名も含め、歴史的仮名遣いを用いて答えなさい。

問11 ここでの「拳」とは何か答えなさい。

問12 ここでの「京」とは何か答えなさい。



問13 「驢」とは何か答えなさい。

問14 「賦詩」の意味を簡単に答えなさい。

問15 ここでの「勢」の意味を次の中から選び丸で囲みなさい。

- ア：優勢
- イ：いきおい
- ウ：仕草
- エ：勢力

問16 「乃具言」の「乃」の意味を次の中から選び丸で囲みなさい。

- ア：ただちに
- イ：そこで
- ウ：けれども
- エ：また

問17 ここでの「具」の意味を次の中から選び丸で囲みなさい。

- ア：すぐに
- イ：ともに
- ウ：いきおいよく
- エ：くわしく

問18 ここでの「遂」の意味を次の中から選び丸で囲みなさい。

- ア：とうとう
- イ：そのまま
- ウ：しまいに
- エ：いまだに



問 19 「轡」とは何か答えなさい。

問 20 「賈島赴拳至京。」は、誰が何のためにどうする様子か簡単に説明しなさい。

問 21 「得『僧推月下門』之句。」について、誰が何を得たのかを簡単に説明しなさい。

問 22 「欲改推作敲。」を現代語訳しなさい。

問 23 「引手作推敲之勢、未決。」を書き下し文にしなさい。

問 24 「未決」とは、なにが未決なのか、答えなさい。

問 25 「引手作推敲之勢」は誰のどんな様子を表しているか、簡単に説明しなさい。

問 26 「不覺衝大尹韓愈。」を書き下し文にしなさい。



問 2 7 「衝たる」とあるが、誰が何にどうしたのか、簡単に説明しなさい。

問 2 8 「衝たる」とあるが、そうなった理由を簡単に説明しなさい。

問 2 9 「乃具言」は、誰が何をどうした様子を表しているか、簡単に説明しなさい。

問 3 0 「愈曰、『敲字佳矣。』」を書き下しなさい。

問 3 1 韓愈はなぜ「敲」の字の方が良いと言ったと考えられるか、簡単に答えなさい。

問 3 2 「並轡」は、どのような様子を表しているか、簡単に説明しなさい。

問 3 3 本文から読み取れる韓愈の人柄としてふさわしいものを次の中から選び丸で囲みなさい。

- ア：大きな権力をもつ厳しい人柄
- イ：細かい点を気にする融通の効かない人柄
- ウ：自分の詩人としての成長を追求する努力家
- エ：詩を愛する寛容な人柄



問３４ 本文から置き字を抜き出し答えなさい。

問３５ 賈島は、「僧推月下門」という句をどのように変えようと思ったのか。
変えたあとの句を書きなさい。

問３６ 「推敲」という故事成語の意味を簡単に答えなさい。



(古典) 漢文「推敲」定期テスト対策練習問題無料プリント (解答)

問1 戦国策唐詩紀事

【解説】あまり問題として出ることはないが、念のためおさえておくと安心。

問2 イ

【解説】高レベル問題。韓愈は中唐に活躍した文人であるため、中唐が正しい。

韓愈が活躍した時代は、漢文の常識としておさえておこう。

問3 のりて

問4 ふするに

問5 なさんと

問6 あたる

問7 すなはち

問8 つぶさに

問9 よし

問10 つひに



問 1 1 科挙

【解説】中国の隋から清の時代まで行われていた「科挙」という試験のこと。

日本でいう公務員試験のように、官吏になるための試験。とても難しい試験で、詩を作る試験科目もあった。

「科目による選挙」が由来。

問 1 2 長安

【解説】中国の唐の時代の都である、長安の都のこと。

問 1 3 ロバ

問 1 4 詩をつくる

問 1 5 ウ

【解説】「姿勢」という言葉からイメージすると覚えやすい。

問 1 6 イ

問 1 7 エ

【解説】「具体的」という熟語からイメージすると覚えやすい。

問 1 8 イ

【解説】「ついに」という言葉から、「とうとう」と間違えやすいので注意しよう。

問 1 9 手綱

【解説】「轡」の読みは、教科書によって「ひ」「くつわ」と分かれる場合がある。

問 2 0 例：賈島が科挙（の試験）を受けるために京（長安）に来た様子

問 2 1 例：賈島が「僧は推す月下の門」という句を得た



問22 例：「推」（の字）を改めて「敲」（の字）にしようとした。

【解説】「したいと思った」でも正解となると思うが、本来はここでの「欲す」は「したい(want to)」というよりも「しよう(will)」のニュアンスの方がふさわしい。

問23 手を引きて推敲の勢を作すも、未だ決せず。

【解説】再読文字「未」に注意しよう。漢文の再読文字「未」は、「いまだ～ず」と読み、「まだ～ない」という意味を表す。返り点を無視して「未だ」と読み、次に返り点に従って「～ず」と読む。

問24 「推」（の字）と「敲」（の字）のどちらが良いかということ

問25 例：賈島が手を動かして「推す」と「敲く」のしぐさを試している様子

問26 覚えずして大尹韓愈に衝たる。

問27 例：賈島が韓愈（の列）にあたった（ぶつかった）。

問28 例：句の中の「推」という字と「敲」という字のどちらが良いか考え事をしていたから

問29 例：賈島が（韓愈に）「推」と「敲」のどちらが良いか悩んでいることを詳しく話した様子

【解説】主語が「賈島」であること、「具」が「くわしく」という意味であるため、詳しい内容である「推」と「敲」のどちらが良いか悩んでいることを説明できているかがポイント。

問30 愈日はく、「敲の字佳し。」と。

【解説】句読点の丸までしっかり書く事を注意しよう。



問 3 1 例：月夜の静けさの中、門を敲く音が響き風情が出るから

【解説】「静けさ」と「音」に触れているかがポイント。本来、なぜ韓愈が「敲」を良いとしたかは本文にはハッキリと言及されていないが、「音がする」から良いとしたという解釈が一般的。テストでも出やすい。

問 3 2 例：賈島と韓愈が並んでいる様子

問 3 3 エ

【解説】本来であれば、賈島と韓愈には大きな身分の差があるが、詩について賈島と「並んで久しく論ずる」様子から、詩を愛し、身分の差も気にしない寛容な人柄が読み取れる。

問 3 4 矣

【解説】問題と出されることは可能性が低いですが、余力があればおさえておこう。矣は、強調の意味を持っていることも覚えておこう。

問 3 5 僧敲月下門

問 3 6 例：文章を書いた後、字句を良くするために何回も読んで練り直すこと

